

新国立劇場 開場25周年記念公演
新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
ヴェルディアイダ
Aida

2023年4月5日(水)~4月21日(金)

会場:新国立劇場オペラパレス 2023年2月5日(日)前売開始

**豪華絢爛な古代エジプト世界が眼前に！ゼッフィレツリの『アイダ』を開場25周年記念に上演**

新国立劇場開場記念公演として上演して以来絶大な人気を誇るオペラ『アイダ』。古代エジプトの戦士ラダメスと敵国エチオピアの王女アイダの悲恋を描いたヴェルディの祝祭的大作を、開場25周年記念公演として5年ぶりに上演します。

映画史・舞台芸術史に燦然と輝く伝説的巨匠ゼッフィレツリによる『アイダ』は粋を極めた演出で、古代エジプト世界が舞台に蘇り、息を呑むばかりの豪華絢爛な舞台美術がダイナミックに展開します。有名な第2幕“凱旋の場”は、総勢300名もの出演者が登場する大スペクタクル。オペラファンならずとも人生で一度は観てみたい名舞台です。

名匠リッツィ指揮のもと、ファルノッキア、アロニカらトップ歌手が集結

指揮にはメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などの著名歌劇場で活躍するカルロ・リッツィが登場。特にヴェルディ作品では世界最高の知識とセンスを持つと絶賛される名指揮者の登場に、期待が募ります。アイダ役に日本のファンも多い名ソプラノのセレーナ・ファルノッキア、ラダメスに世界最高峰のテノール、ロベルト・アロニカが出演するのもオペラファンのお題の的。オペラならではの声のスペクタクルを存分にお楽しみいただけることでしょう。目にも耳にも贅沢極まる特別公演『アイダ』をどうぞお見逃しなく。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

ヴェルディの祝祭的大作を豪華絢爛なゼツフィレッリ演出で

『アイダ』はヴェルディ後期の大作で、スエズ運河開通を記念し建設されたカイロ歌劇場で 1871 年に初演されました。1 ヶ月後のスカラ座公演ではアンコールが 40 回も続く大成功を収め、その後も世界の歌劇場で高い人気を誇っています。物語は、古代エジプトの戦士ラダメスと、敵国エチオピアの王女アイダの一途な愛を描きます。幕開けからラダメスのアリア「清きアイダ」や、アイダの「勝てて帰れ」、「凱旋行進曲」と輝かしい名曲が続き、後半では恋人たちの愛、父娘の想い、誇り、嫉妬など心理的葛藤が描かれます。最終場のアイダとラダメスの二重唱「運命の岩がとざされた」では、二人の愛が昇華する清らかな音楽が響きます。

1998 年に新国立劇場開場記念公演として制作したゼツフィレッリの演出は、徹底したリアリズムと映像的な効果を特徴とするゼツフィレッリらしく豪華絢爛で、どのシーンを切り取っても美しく、新国立劇場ならではのダイナミックな舞台転換も盛り込まれます。歌手、合唱、バレエ、助演俳優が織りなす“凱旋の場”は音と視覚の大スペクタクル。総勢 300 名もの出演者が織り成す歴史絵巻に、サッカーの応援歌でも有名な「凱旋行進曲」が高らかに鳴り響きます。

絶大な人気を誇る『アイダ』の壮麗な舞台を観られるのは、新国立劇場 25 周年の特別な機会だからこそ。2023 年は奇しくも、作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901) 生誕 210 年にして、演出家フランコ・ゼツフィレッリ(1923-2019) 生誕 100 年の記念年。特別な節目の公演は、オペラファンのみならず、オペラを観てみたい方、一生の記念となる特別な体験をお探しの方へもお勧めです！



名匠リッツィの指揮のもと、トップ歌手陣が揃う、祝祭にふさわしい出演者陣

指揮にはメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などの著名歌劇場で活躍するカルロ・リッツィが新国立劇場へ『ファルスタッフ』(2018 年)以来待望の再登場。世界最高のオペラ指揮者の一人であり、特にヴェルディ作品で評価されるリッツィは『ファルスタッフ』の際にも日本のオペラファンの間に大評判を巻き起こし、再登場が待ち望まれていました。

アイダ役には日本のファンも多い名ソプラノのセレーナ・ファルノッキア、ラダメスに強靱な声を誇る世界最高峰のテノール、ロベルト・アロニカが出演。アムネリスはアメリカ出身でベルリン・ドイツ・オペラ、サンフランシスコ・オペラなどで活躍中のアイリーン・ロバーツ。アイダの父アモナズロには、スケールの大きな歌唱で絶賛されるバリトン須藤慎吾、司祭長ランフィスに日本の誇るバス妻屋秀和、エジプト国王に実力派バス伊藤貴之、伝令に人気絶頂のテノール村上敏明と国内トップ歌手が揃うのも、祝祭にふさわしい顔ぶれ。巫女役には、新国立劇場オペラ研修所を経てイタリアで研鑽を積んだ大型のメゾソプラノ十合翔子が新国立劇場のシーズン公演デビューを飾ります。

<「アイダ」あらすじ>

【第1幕】

古代エジプト。エジプト軍の若い将軍ラダメスは、王女アムネリスに仕える奴隷アイダを敵国エチオピアの王女と知らず、密かに愛し合っている。ラダメスは神託によってエチオピア征伐軍総司令官に任命される。人々は「勝てて帰れ」と若者を激励するが、アイダはラダメスへの愛と、祖国エチオピアへの想いの間で苦しむ。

【第2幕】

ラダメスを愛しているアムネリスはアイダと彼の関係を疑い、アイダにラダメスは戦死したと嘘を言う。アイダの動揺を見て、嫉妬に燃えるアムネリス。エジプト軍の勝利を祝う式典が行われ、群衆がラダメス率いるエジプト軍の凱旋を迎える。戦利品に続く捕虜の中に、アイダの父であり、エチオピア国王の身分を隠したアモナズロがいる。エジプト王は、戦勝の報奨としてラダメスにアムネリスとの結婚を命じる。

【第3幕】

夜のナイル河畔に、アイダがラダメスとの密会のためにやってくると、父アモナズロが現れて祖国のためにラダメスから軍事機密を聞き出すよう密命を下す。アイダに情報を流したラダメスは謀反人として捕らえられ、投獄される。

【第4幕】

アムネリスは自分を愛せば命を救おうとラダメスに迫るが、彼は応じようとせず、やがて裁判で死刑を宣告される。地下牢で独り死を待つラダメスの前に牢に忍びこんでいたアイダが現われ、二人は永遠の愛を誓いながら死を待つ。地上ではアムネリスが死者の冥福を祈り続ける。





<『アイーダ』ダイジェスト映像>

<https://youtu.be/1t1Bd9Urx7k>

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】カルロ・リッツィ

世界有数のオペラ指揮者。生地ミラノ音楽院に学び、ミラノ・スカラ座の音楽スタッフとして経験を積む。1982年に指揮者としてのキャリアをスタートし、オペラとコンサート双方で世界中の一流劇場やフェスティバルで活躍。音楽の知識と演劇的センス、そして世界の劇場で磨かれた協働のスキルにより、オペラの達人として高い評価を獲得している。オペラのレパートリーはイタリア・オペラを中心にワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、マルティヌー、ヤナーチェクまで100以上に及ぶ。92～2001年及び04～08年にはウェールズ・ナショナル・オペラ音楽監督を務め、その芸術的水準と国際的知名度を劇的に向上させた。15年から同桂冠指揮者。19年よりオペラ・ラーラ音楽監督。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラとは特に深い関係を築いており、パリ・オペラ座、テアトロ・レアル、ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、オランダ国立オペラ、シカゴ・リリック・オペラ、チューリヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場などでも活躍。最近のオペラ公演では、カナディアン・オペラ・カンパニー『トゥーランドット』、フィレンツェ歌劇場『仮面舞踏会』『椿姫』、ソフィア王妃芸術宮殿『チェネレントラ』、ウェールズ・ナショナル・オペラ『蝶々夫人』、メトロポリタン歌劇場『トスカ』『ラ・ボエーム』、バイエルン州立歌劇場『トスカ』などを指揮。22/23シーズンはメトロポリタン歌劇場『メデア』（シーズン開幕公演）、『トスカ』『ドン・カルロ』、パリ・オペラ座『イル・トロヴァトーレ』を指揮したほか、バイエルン州立歌劇場『マノン・レスコー』、パリ・オペラ座『ロメオとジュリエット』に登場予定。新国立劇場では18年『ファルスタッフ』を指揮している。

Carlo RIZZI



【演出・美術・衣裳】フランコ・ゼッフィレッリ

Franco ZEFFIRELLI

1923年イタリアのフィレンツェに生まれる。46年ヴィスコンティと出会ったのをきっかけに、彼の助手を務める。53年ミラノ・スカラ座の『チェネレントラ』で演出家デビュー。60年ロンドンのオールド・ヴィック劇場で演劇『ロミオとジュリエット』、63年ミラノ・スカラ座で『アイーダ』演出のほか、映画など様々なジャンルで活躍している。リアリズムを主軸として、音楽とドラマを視覚的な美しさで見せるその演出は、彼自身のデザインによる絢爛豪華な装置、衣裳も含め高く評価されている。これまでの来日公演には、ミラノ・スカラ座による『オテロ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』、メトロポリタン歌劇場『カルメン』『椿姫』などがある。映画監督作品に『ロミオとジュリエット』『ブラザー・サン・シスター・ムーン』『チャンプ』『ムツソリーニとお茶を』『永遠のマリア・カラス』などがある。2019年6月逝去。



【アイーダ】セレーナ・ファルノッキア

Serena FARNOCCHIA

イタリア・ピエトラサンタ生まれ。1995年フィラデルフィアのルチアーノ・パヴァロッティ国際音楽コンクールで優勝後、ミラノ・スカラ座『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナでデビュー。モーツァルトの『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ドンナ・エルヴィーラ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『フィガロの結婚』伯爵夫人などから、『マリア・ストウアルダ』タイトルロール、『ノルマ』アダルジーザ、『アンナ・ボレーナ』タイトルロールなどのベルカント・オペラ、ヴェルディでは『ルイザ・ミラー』タイトルロール、『シモン・ボッカネグラ』アメリア、『ファルスタッフ』アリーチェ、『オテロ』デズデーモナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、プッチーニの『マノン・レスコー』タイトルロール、『蝶々夫人』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ミミ、『トゥーランドット』リュウ、さらに『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニアといったフランス・オペラをレパートリーとする。これまでにミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、トリノ王立歌劇場など世界の主要歌劇場に出演を重ねる。フェニーチェ歌劇場、フィレンツェ歌劇場公演やサントリーホール・オペラなどで来日も多い。新国立劇場では2007年『ファルスタッフ』アリーチェ、09年「ニューイヤーパーラパレスガラ」、14年『ドン・カルロ』エリザベッタ、17年『オテロ』デズデーモナに出演している。



【ラダメス】ロベルト・アロニカ

Roberto ARONICA

イタリア・チヴィタペッキア生まれ。ベルゴンツィのもとで音楽を学ぶ。サンチャゴ・ムニシパル劇場『リゴレット』でデビュー後、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、シカゴ・リリック・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、ロサンゼルス・オペラなど世界の主要歌劇場の重要な役に出演。主なレパートリーに、『運命の力』ドン・アルヴァーロ、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『アイーダ』ラダメス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『オテロ』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセ、『トスカ』カヴァラドッシ、『マノン・レスコー』デ・グリュウ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウ、『サムソンとデリラ』サムソン、『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオなどがある。最近の出演に、フィレンツェ歌劇場『運命の力』ドン・アルヴァーロ、ヴェローナ野外音楽祭『アイーダ』ラダメス、ポローニャ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ、オペラ・オーストラリア『ローエングリン』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセ、ポローニャ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ、『オテロ』タイトルロールなど。新国立劇場初登場。



【アムネリス】アイリーン・ロバーツ**Irene ROBERTS**

アメリカのメゾソプラノ。パシフィック大学、クレーヴランド音楽院で学び、パームビーチ・オペラのヤングアーティスト・プログラムを修了。ベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手として、『カルメン』タイトルロール、『ファウストの劫罰』マルグリート、『ホフマン物語』ニクラウス、『ナブッコ』フェネーナ、『ドン・キホット』ドゥルシネなど多くの公演に出演。近年オランダ国立オペラに『ホフマン物語』ニクラウスで、フェニーチェ歌劇場に『アイダ』アムネリスで、マテラータ音楽祭に『カルメン』タイトルロールで、クラーゲンフルト歌劇場に『タンホイザー』ヴェーヌスでデビューした。サンフランシスコ・オペラ『カルメン』タイトルロール、パームビーチ・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『蝶々夫人』スズキ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、アトランタ・オペラ『セビリアの理髪師』ロジーナなどにも出演している。21/22 シーズンはベルリン・ドイツ・オペラ『カルメン』タイトルロール、『蝶々夫人』スズキなどのほか、サンフランシスコ・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラに出演。『令嬢ジュリー』（ブスマンズ作曲）タイトルロールではロレーヌ歌劇場、ディジョン歌劇場へデビューした。今シーズンはベルリン・ドイツ・オペラ『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ナブッコ』フェネーナ、『ドン・キホット』ドゥルシネなどのほか、リヨン歌劇場『タンホイザー』ヴェーヌスに出演している。新国立劇場初登場。

**【アモナズロ】須藤慎吾****SUDO Shingo**

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンクール1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位（イタリア）などを受賞。99年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。06年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では19年『椿姫』ジェルモンで大成功を収めたほか、『椿姫』ドゥフォーール男爵、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピア、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』及び同演目びわ湖ホール公演でエスカミーリョに出演。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。

**【ランフィス】妻屋秀和****TSUMAYA Hidekazu**

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ペルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スバラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムールなど出演多数。20/21 シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『ドン・カルロ』フィリップポ二世、『カルメン』スニガに出演。21/22 シーズンは『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケルに出演。22/23 シーズンは『タンホイザー』領主ヘルマン、『リゴレット』スバラフチーレにも出演予定。令和3年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。二期会会員。

**【エジプト国王】伊藤貴之****ITO Takayuki**

名古屋芸術大学卒業、同大学院修了。13～14年渡伊。第48回日伊声楽コンクール第2位、第6回G.ゼッカ国際声楽コンクール第2位。第41回イタリア声楽コンクール金賞受賞。平成24年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞。愛知県芸術劇場『ランメルモールのルチア』ライモンドをはじめ、『ドン・ジョヴァンニ』『リゴレット』『トゥーランドット』など多数のオペラに出演。13年藤原歌劇団にデビューし、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ランスへの旅』シドニー卿、『ノルマ』オロヴェージュなどに出演。新国立劇場では『サロメ』兵士2、『オテロ』モンターノ、『カルメン』スニガ、『ウェルテル』大法官、『ルチア』ライモンドに出演している。22/23 シーズンは『ホフマン物語』ルーテル／クレスペルにも出演予定。藤原歌劇団団員。

**【伝令】村上敏明****MURAKAMI Toshiaki**

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてポローニャに留学。第9回マダムパタフライ世界コンクール優勝など受賞多数。04年には第40回日伊声楽コンクール第1位、第35回イタリア声楽コンクール・シエナ大賞と国内2大タイトルを獲得。02年にオルヴィエートのマンチネリ劇場『リゴレット』マントヴァ公爵でヨーロッパデビュー。イタリア各地で『蝶々夫人』ピンカートン、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『ナブッコ』イズマエーレ、『トスカ』カヴァラドッシなどに出演。10年にはスポレートのDue Mondì音楽祭より招待され、ヘンツェ作曲『午後の曳航』の舞台上演世界初演で主役のノボル役を演じ絶賛された。藤原歌劇団では『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ルチア』エドガルド、『仮面舞踏会』リカルド、『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。新国立劇場では『黒船・夜明け』領事、『修禅寺物語』源左金吾頼家、『ドン・カルロ』レルマ伯爵／王室の布告者、『オテロ』ロデリーゴ、『紫苑物語』藤内、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、『トゥーランドット』ボン、『ワルキューレ』ジークムント（第1幕）、『カルメン』ドン・ホセ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートン、同『椿姫』アルフレード、同『愛の妙薬』ネモリーノ、同『トスカ』カヴァラドッシなどに出演している。藤原歌劇団団員。



【巫女】十合翔子**SOGO Shoko**

神戸女学院大学音楽学部卒業。在学時に海外研修助成金拝受。新国立劇場オペラ研修所第19期修了。ANAスカラシップによりミラノ・スカラ座アカデミー、バイエルン州立歌劇場研修所にて研修。令和元年度文化庁新進芸術家海外研修員としてポーランドに留学。21年グアルディアグレーレ・オペラフェスティバルで『チェネレントラ』タイトルロールを務めイタリアでのオペラデビュー。これまでに『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベツラ、『カプレーティとモンテッキ』ロメオ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『イル・カンピエット』オルソラ、『イオランタ』マルタなどで出演。新国立劇場には高校生のためのオペラ鑑賞教室2022『蝶々夫人』ケートでデビューした。



新国立劇場開場25周年記念公演
新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
ジュゼッペ・ヴェルディ

アイダ

Aida / Giuseppe Verdi

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2023年4月5日(水)18:00／8日(土)14:00／11日(火)14:00／13日(木)14:00／16日(日)14:00
／19日(水)18:00／21日(金)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:29,700円・A:24,200円・B:16,500円・C:11,000円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】2023年2月5日(日)

※予定上演時間 3時間50分

※4月13日(木)は「びあスペシャルデー(びあ貸切公演)」のため、前売り券は「チケットびあ」で販売いたします。新国立劇場ではZ席のみ販売します。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

指揮	カルロ・リッツィ	アイダ	セレーナ・ファルノッキア
Conductor	Carlo RIZZI	Aida	Serena FARNOCCHIA
演出・美術・衣裳	フランコ・ゼッフィレッリ	ラダメス	ロベルト・アロニカ
Production, Set and Costume Design	Franco ZEFFIRELLI	Radames	Roberto ARONICA
照明	奥畑康夫	アムネリス	アイリーン・ロバーツ
Lighting Design	OKUHATA Yasuo	Amneris	Irene ROBERTS
振付	石井清子	アモナズロ	須藤慎吾
Choreographer	ISHII Kiyoko	Amonasro	SUDO Shingo
再演演出	粟國 淳	ランフィス	妻屋秀和
Revival Director	AGUNI Jun	Ramfis	TSUMAYA Hidekazu
舞台監督	斉藤美穂	エジプト国王	伊藤貴之
Stage Manager	SAITO Miho	Il Re	ITO Takayuki
		伝令	村上敏明
		Un messaggero	MURAKAMI Toshiaki
		巫女	十合翔子
		Sacerdotessa	SOGO Shoko

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
バレエ	東京シティ・バレエ団
Ballet	Tokyo City Ballet
児童バレエ	ティアラこうとう・ジュニアバレエ団
Junior Ballet	Tiara Koto Junior Ballet
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督 大野和士
Artistic Director ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/Aida/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットびあ、イープラス、ローソンチケットほか

*Z席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

*当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。

*未就学児入場不可。

*新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演はレパトリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



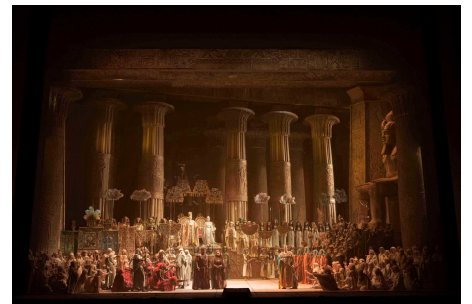
【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】

新国立劇場オペラ『アイダ』2018年公演より 撮影: 寺司正彦